

第3学年 特別の教科 道徳 学習指導案

1 主題構成表

主題名 広い心で 資料名 わたしだって (出典 光文書院)

<p>■内容項目 B－(11) 相互理解・寛容 自分の考えや意見を相手に伝えるとともに相手のことを理解し、自分と異なる意見も大切にすること。</p>	<p>■価値の分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寛容とは、広い心を持ち、よく人の言動を聞き、受け入れ、人の失敗や欠点などを厳しく責めないことである。そのために、日頃から相手の立場や気持ちを考えて、自分の行動や言動につなげていこうとする意識が大切だと考える。 ・中学年では、自分の立場・感じ方・考え方と、仲間のそれに違いがあることに気づき、おおよそ理解できるようにはなる。しかし、時と場合により、自分の気持ちが先行してしまい、相手のことが許せず、対立が生じたりすることも少なくない。そこで、相手について理解し、自分のこととして受け止める心情を培うことが重要だと考える。 ・本学級では、日常生活を送る中で、相手の立場や気持ちを深く考えずにした行動や言動により対立が生じることがあり、教師を介してお互いの思いを伝え合う場面も多く見られる。そのため、日頃から相手のことを理解するために、相手の話に 	<p>■資料の分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本資料はまず、片付けの時間に、まだ絵を描き続けている主人公の完成間近の絵に、友だちの失敗によって線ができてしまう場面から始まる。友だちは何度も謝るが、主人公は許すことができない。友だちの失敗に、悲しみや、残念な思いに包まれる主人公の気持ちは、子どもたちが共感しやすい。 ・次の場面は、主人公が失敗をする立場になる。走ってトイレに向かう主人公は、お姉さんにぶつかり、お姉さんの服を汚してしまう。すると、お姉さんは「だいじょうぶ、ぬれなかった？ごめんね。」と謝ってきた。自分に非があるのに、先に謝ってくれたお姉さんに主人公は、相手の立場を考え、先に謝ってくれたお姉さんの心の広さに感激し、学校での出来事を思い起こす。 ・相手の立場や気持ちを考えず、自分の気持ちが先行してしまうことは、よくあることである。しかし、立場が変わり、自分が失敗する側に立ったときに、失敗した側の気持ちについて知ることができる。そこで、本資料を通して、その両方の立場の心情を考えることで、相手の失敗を許せる広い心をもつことの大切さに気づかせる。
<p>■内容項目から見た児童の実態</p> <ul style="list-style-type: none"> ○仲間の良さ見つけでは、どの児童も相手の良さを見つけることができる。 ○仲間の個性を受け止め、優しく声をかけたり、困っている姿を見つけると、手をさしのべたりすることができる。 △掃除の役割分担をする時に、自分のやりたくない分担にならないよう、自分勝手に決めてしまうことがある。 △学級遊びで、自分の思いが通らないことに腹を立てて、調和を乱そうとすることがある。 <p>■要因</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちが先行し、相手の立場や気持ちを深く考えずに行動してしまうためだと考える。 		

	<p>耳を傾け、深く理解することで、誰</p> <p>に対しても広い心で日常生活を送</p> <p>ろうとする態度を育てたい。</p>	
--	---	--

■ねらい

失敗は誰にでもあるから、許す心も必要であることがわかり、進んで実践しようとする心情を育てる。

■展開の構想

- ・ 休み時間の学級遊びや運動会の練習などの学校生活での経験から、相手の失敗で嫌な気持ちになり、すっきりしないままやり過ごした自分の思いに気付かせる。
- ・ 相手の失敗を許すことができない気持ちに共感させる。
- ・ 相手の失敗を許すことにより、相手も自分も明るい心になることに気付かせ、相手との円滑な人間関係を維持するには、広い心で許すことも大切だと気付かせる。
- ・ 広い心をもっていると思う仲間の姿を見つけることで、自分も仲間に対してそうなりたいという実践意欲につなげる。

■基本発問（◎中心発問）

- わざとじゃないけど、やられて嫌な気持ちになったことはありますか。
- ずっとだまっていたまのけい子は、どんなことを考えていたのでしょうか。
- ◎ お姉さんに、「大丈夫、ぬれなかった？ごめんね。」と言われた時、どんなことを考えていたのでしょうか。
- 身の回りに、心が広いと思う人はいますか。その人のどんな行動からそう思いましたか。

2 学習指導過程

	基本発問と予想される児童の反応	指導・援助
導 入	<p>1. 資料への導入を行う。失敗についての考えを話し合う。</p> <p>○ わざとじゃないけど、やられて嫌な気持ちになったことはありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ わざとじゃないと分かっているけど、悲しかった。 ・ 我慢して、責めないようにしたけど、辛くなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ すっきりしない気持ちをした経験を振り返る。

展 開	<p>2. 資料を読み、寛容な心について考え、交流する。</p> <p>○ ずっとだまっただまのけい子は、どんなことを考えていたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・謝っているから許してあげたいけれど、できない。 ・もう直せない。どうしよう。 <p>◎ お姉さんに、「大丈夫、ぬれなかった？ごめんね。」と言われた時、どんなことを考えていたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が悪かったのに、お姉さんが謝ってくれた。 ・自分が失敗したのに、嫌な気持ちにならずにすんだ。 ・お姉さんは、優しいな。 ・心が楽になった。心が救われた。 ・お姉さんは、心が広いな。 <p>〈深めの発問〉</p> <p>☆ けい子は修のことをどう思ったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・許してあげられなかった。 ・修にかわいそうなことをした。 ・修は、辛かっただろうな。 ・「いいよ。」って言ってあげられたらよかったな。 ・修の気持ちを考えてなかったな。 ・お姉さんのような、広い心をもちたいな。 	<p>○資料に十分浸らせるため、読み聞かせ形式（絵資料を電子黒板に表示）で資料を範読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・導入で立てた問いを意識しながら、許したいが許せない気持ちに十分共感させる。 ・共に、不注意で被害を受けたことを確認する。また、今度はけい子が失敗をする側に立ったことが分かりやすいように、構造的に板書をする。 ・お姉さんの場面と修との場面の時の自分との違い気付かせる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【心情】 失敗を許すことが、今後の人間関係を維持するために大切であることが理解できたか。</p> </div>
終 末	<p>3. 今日の学習から考えたことをまとめ、交流する。</p> <p>○ ・身の回りに、心が広いと思う人はいますか。その人のどんな行動からそう思いましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・習字の墨で床が汚れていると、自分が汚したわけじゃないけど雑巾で拭いていた。 ・下駄箱の靴が揃えられていない友だちの靴を、進んで整えていた。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>失敗することは誰にでもあるのだから、相手の失敗を広い心で許す心が大切なんだ。相手がどんなに失敗したって、許せる自分になりたい。</p> </div> <p>4. 教師の説話を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちの考えを聞くことで理解を確かにし、実践への意欲や態度につなげる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【理解、判断力】 失敗は誰にでもあるから、許す心も必要であることが理解できたか。</p> </div>

3 道徳の時間（本時）と他の教育活動との関連

<場の内容とねらい>

<日常活動>

<児童の意識>

<指導・援助>

学級活動

○学級目標づくり
・「思いやり」をキーワードのひとつとし、相手を大切にしたいという願いをもつ。

○学級遊び

・休み時間の学級遊びや、学期末のまとめの会で、自分がやり

○係活動

・自分がやりたい仕事でなくても、仲間のために最後まで責任をもってやり切る。

・学級遊びの準備を手伝ってあげたのに、友だちから嫌な言葉を投げかけられた。

・黒板を消すのを手伝ってあげたのに、止めて欲しいと言われた。悲しいな。

- ・朝の会や帰りの会で仲間のよいところを見つけ、認める場を設定する。
- ・いろいろな子と関わる機会を増やすために、席替えを定期的に行う。
- ・学級のみんなで頑張っていることを学級目標と照らし合わせ

特別活動

○運動会の練習

- ・「前前前世」（リズムダンス）では、相手の縄を回すペースが自分と合わず、うまく跳べないときも、怒らずに取り組む。
- ・団体競技「風をきって進め」で、仲間の頑張りを応援する。

道徳の時間

「わたしだって」

内容項目 B-10

- ・自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、相手のことを理解し、自分と異なる意見も大切にすること。

・地域との連携

○中小フォーラムへ向けての取組

- ・相手と自分の考え方や意見の違い、また相手の良さに気づき、高め合う関係を築く。

- ・運動会の練習で、友だちの失敗で何度もやり直しをするのが嫌だな。疲れるな。
- ・みんなでやり切りたいし、勝ちたいから我慢して頑張ろう。

- ・ぼくも同じ思いをしたことがあるな。
- ・友だちの失敗を、許せなくて嫌な思いをしたな。
- ・相手の失敗を許して上げられるようになると、自分も相手も楽になるんだ。

- ・広い心で相手に接することで、より良い人間関係を築いていこう。

- ・学びの手順や活動を明確にして、児童が自主的に学び続ける環境を整える。
- ・仲間との関わりをふやし、お互いの思いに触れながら活動できるようにする。

- ・弱さに十分に共感できるように、同じような経験がないか、確認しながら進めていく。
- ・児童の思考の手がかりとなるように、立場と考え方の違いが明確になるような、構造的な板書をする。
- ・自分の体験を交えて話せるように、同じような経験がないか、確認しながら進めていく。
- ・どの子も自分の言葉で思いが伝えられるように、話す活動だけでなく、書く活動も取り入れる。

- ・友だちの失敗を、広い心で許せたり、自分の考えと違う考えを持つ友だちの意見を素直に受け入れたるときは、その場で価値付け、全体に広めるようにする。